

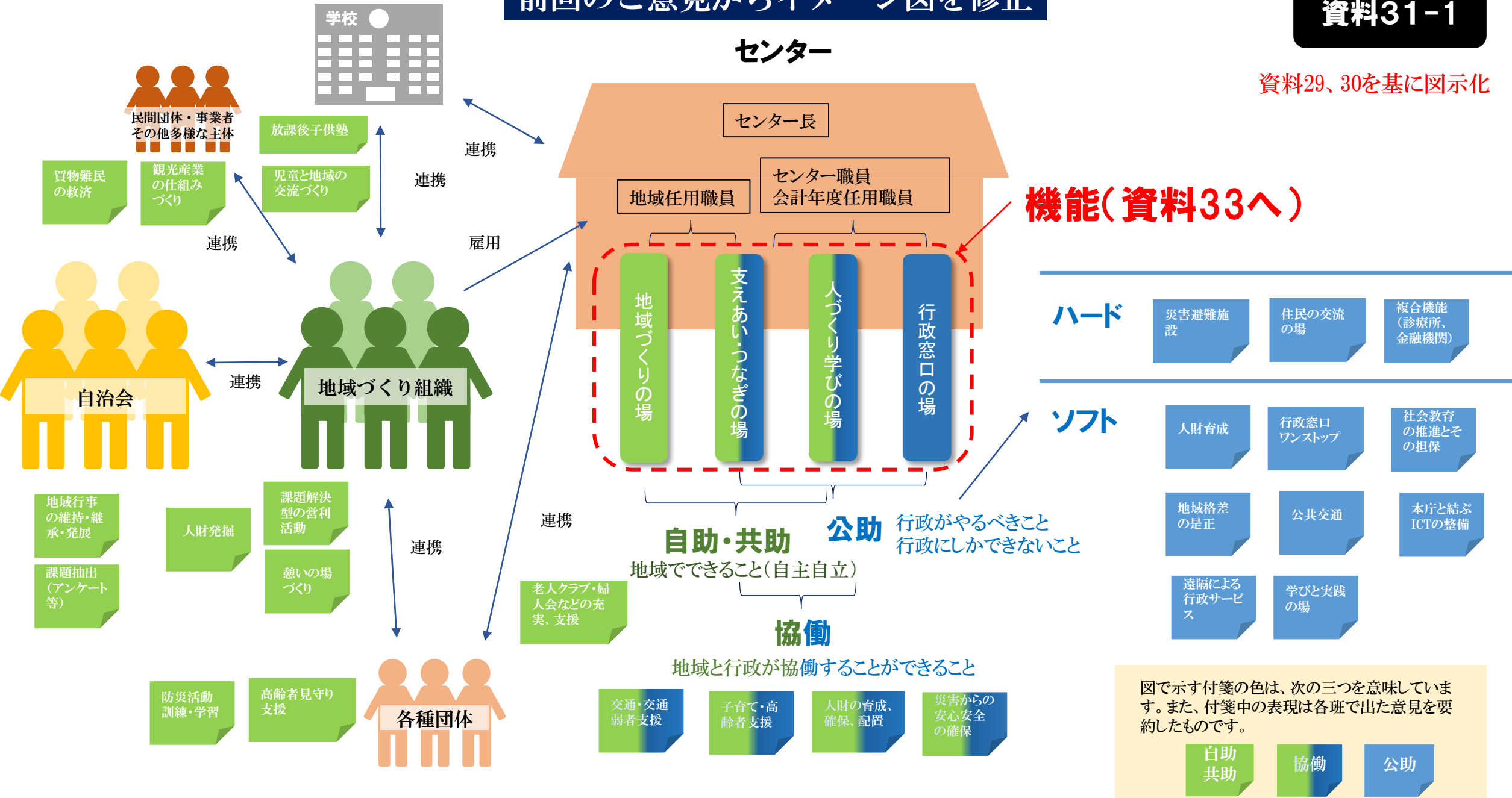
前回のふりかえり と まとめ

**前回の検討委員会で頂いたご意見から資料31
を一部修正しました。**

資料31-1

前回のご意見からイメージ図を修正

資料29、30を基に図示化



**前回の発表された内容を図示化し、発表内容を
まとめました。**

資料32-1～32-10

A班

地域循環型の経済活動の場

元気で働ける場

経済を盛んに
する活躍の場

地域ビジネス

企業との
連携の場

産業の場

地域でお金が
回っていく

支援の場

地域の改善・
意志の改革の場

公民館を知って
もらう場

関係人口の場

世代を継ぐ場

活躍の場

若者が集う場

団体の育成の場

資料32-1

B班

「運営委員会
必要」

センターを中心に、
中央を活性化する

資料32-2

小学校区の単位
の是非！

地域での
ルール

企画・運営・
審査・決定の
「場」

産業創出の
「場」

市内高校の存
続に修正

市内の魅力を
創出

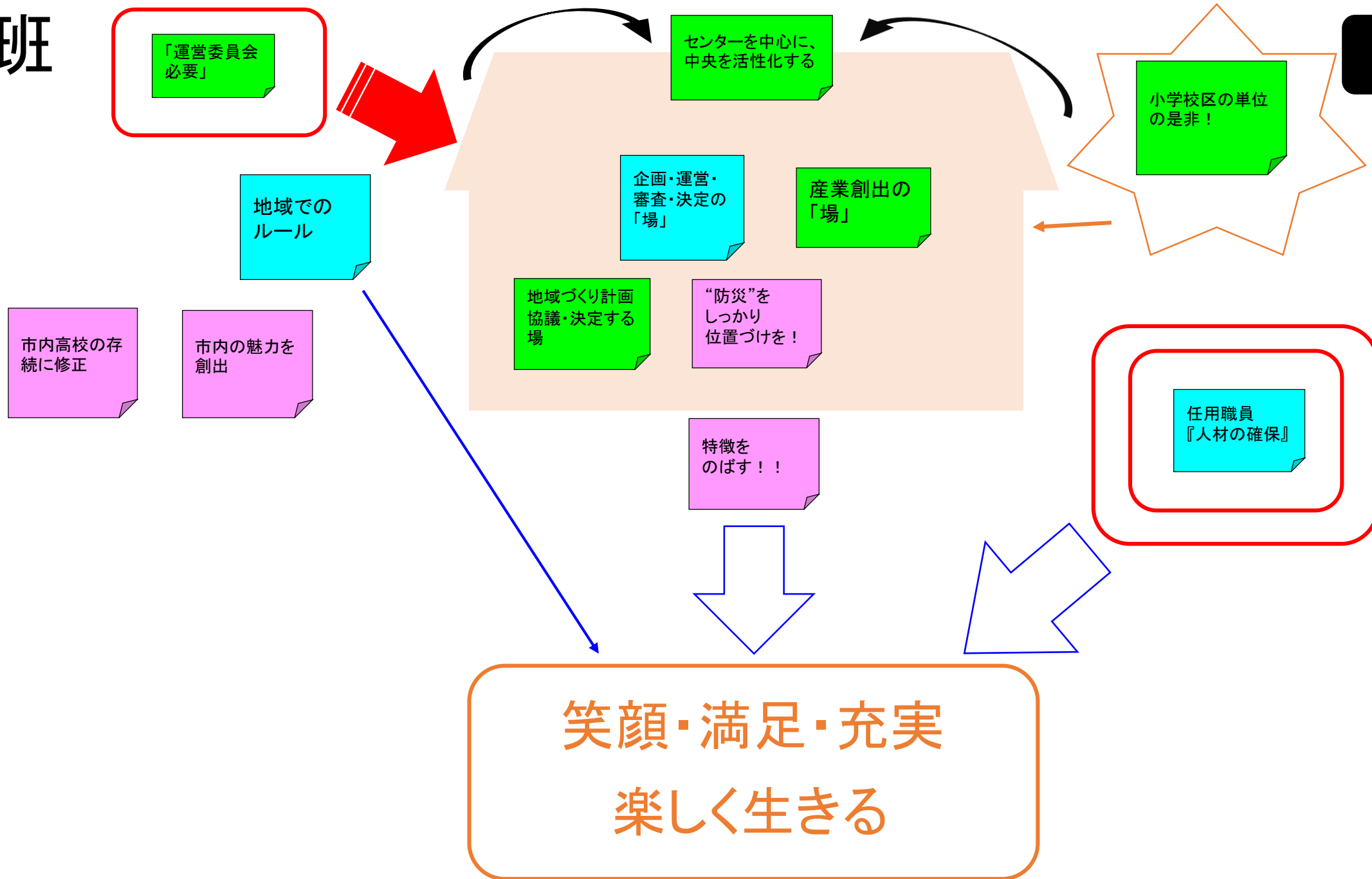
地域づくり計画
協議・決定する
場

“防災”を
しっかり
位置づけを！

任用職員
『人材の確保』

特徴を
のばす！！

笑顔・満足・充実
楽しく生きる



C班

資料32-3

基本体な
理念

自主を支援
(人づくり)は
生涯学習の
役割

小規模
多機能は
住民主体

人づくり
学びの場
を主体にする

センター長
任用職員に
ついて

地域で
決めることが
できる
(任用職員)

センター長と
地域任用
職員との
関係は

地域任用
職員は
まちづくり協議
会の会長でも

市職員
市のOB
地域と
つながりがある

地域のことを
よくわかって
いる人がいい
(任用職員)

センター長の
権限を
はっきりして
おく

センター長は
行政職?

センター長はま
ちづくり協議会
の代表者がいい?

センター長は地
域で雇用できる
のか

地区からの
要望を出せる
交付金から給料
を出すべき

現実
は
難しいかも

事務処理が
難しい

行政サービス

行政窓口
の考え方

住民票等の
手続き

行政サービ
スはセンター
に入れてもいい

何でも
かんでも
入れるのは
よくない

自治センター
から外れて
欲しい
(行政窓口)

センターと自治会
(地域づくり)

区長の扱い
(分館長)
はどうなるのか
(存在感が低下
する)

地域からの
要望をまとめる
人がなくなる

地域の世話役が
いなくなる
まずいのでは

地域づくり組織と
自治会との関係
は?

センターと
自治会との
関係を
整理すること

学校との
連携について

放課後
子ども学びや
担い手が
いない(少ない)

コミュニティ
スクールは学
校があるところ

センターで
は負担が
大きい

小学校がなく
なったところ
はどうするのか

人財
(ボランティア
も含めて)
が不足

公民館
との
関係

公民館で
いいのでは
ないか
混乱をまねく

誰が
リーダーシップ
をとり役割分担
ができるように

ワンチーム
です

公民館運営審議委員会がある
地域のニーズに応えられるか

公民館の
ほうが
やりやすい

そういう組織が
いるのでは

人材(人財)
育成について

高齢化の進展
により、より人
材育成が大切

理想的な案で
はあるが数年
先は維持でき
なくなる

小規模多機能自
治を理解した人
でないとだめ

主事は
有能な職員に
なる

人材(人財)
育成のしくみ
をつくる必要がある

地域にとっての力
になる

費用に
ついて

人件費の対
応ができるの
か

時間給で
支払えるように
したい
(雇用のしかた)

既存地縁
型組織との
連携

婦人会
老人クラブが
活動できるように

地域づくり組織は
応援団である

D班

資料32-4

柱4、5

自慢の
できる場

安心・安全の場

地域の
特性を
活かした場

柱③

出会いの場

・観光
・移住
・結婚
・地域ビジネス

柱②

伝統文化
の場

柱①

自主自立

自主自立の
地域づくり
→これが基本

独立・自主
自立ができ
るかどうか

生産
地域づくり
雇用の場

財源
確保

指定
管理
3つ

年度予算の
使い方

懸案②

行政
窓口
必要

既存
組織との
かねあい

どこまで
自治会に
入り込むか

懸案①

組織
機構

地域の職員
を増やす
地域に張り付
ける

人員配置

集いの場

含

支え合い・つなぎ

住民が
来やすい
環境

用事がなくても
気軽に立ち寄
れる場にしたい

学び
住民からの
要望

ある程度の枠
みきわめて
臨機応変に
対応

市職員と任用と
の住民と係わり
の難しさ

行政窓口
は必要

人づくり学び
の場は
自助、共助
も含まれる

協働

支え合いの場
防災、福祉
を含めて

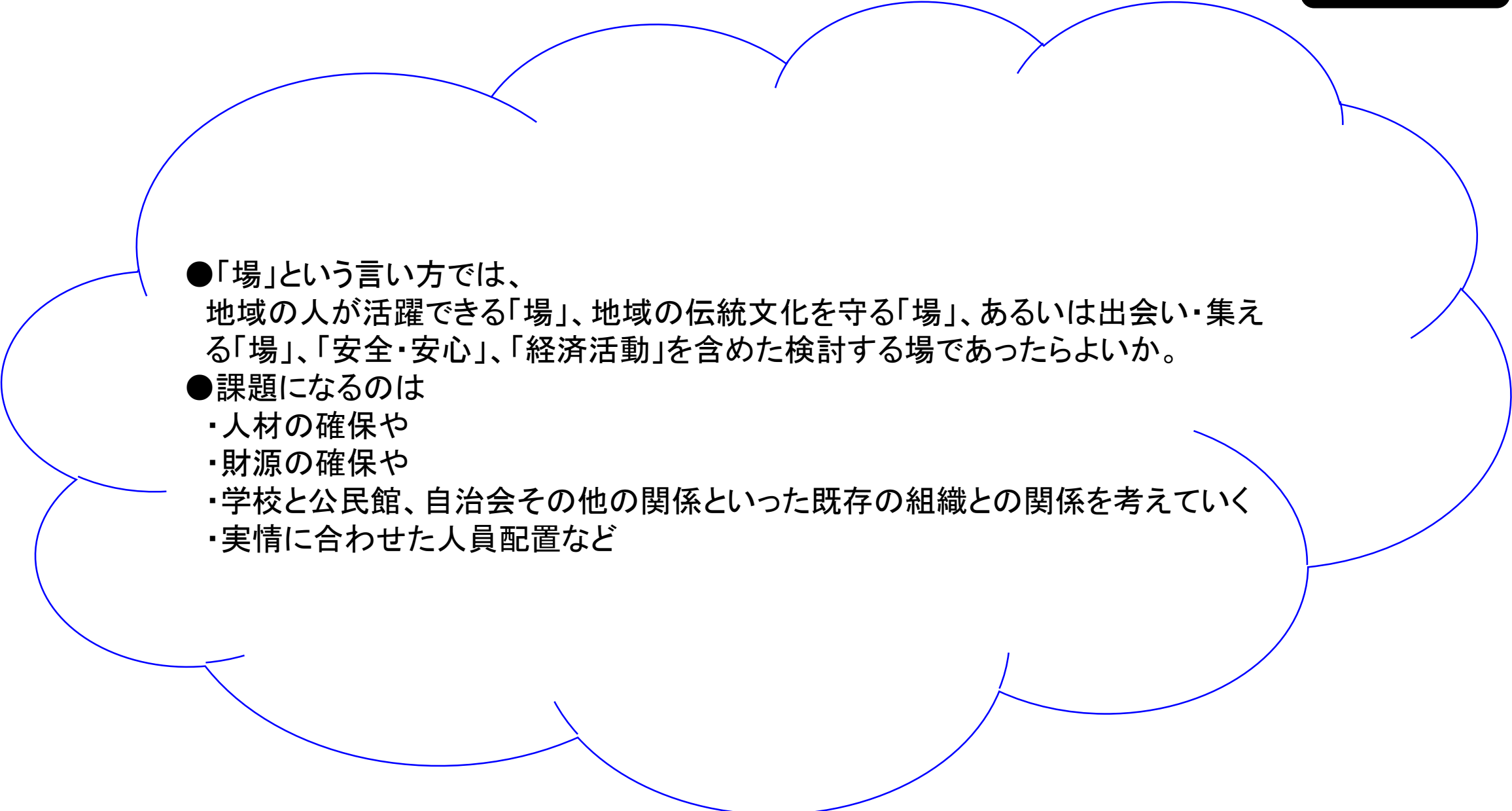
支え合いの場
“支え合い・つ
なぎの場”と
する

支え合いの場に
「困り事相談」

ICTの活用

住民のしたい事
どういう形で
市へつなげるか？

つなげる
困り事への対応

- 
- 「場」という言い方では、
地域の人が活躍できる「場」、地域の伝統文化を守る「場」、あるいは出会い・集える「場」、「安全・安心」、「経済活動」を含めた検討する場であったらよいか。
 - 課題になるのは
 - ・人材の確保や
 - ・財源の確保や
 - ・学校と公民館、自治会その他の関係といった既存の組織との関係を考えていく
 - ・実情に合わせた人員配置など

【A班・発表概要】

- ・地域の人たちが一人一人、いろんな世代が活躍できる場を目的としたい。若い人から親世代、おじいさん、おばあさん世代へとつなげる場所としたい。
- ・地域で循環できるような経済活動が可能になるのではないかな。起業や地元企業、その他の企業を巻き込み、自分たちで自分たちの利益になるような経済活動を進めることができればいい。
- ・地元企業・地場産業の問題に、楽しく自分たちが集えるための資金を自分たちで稼げるくらいの地域循環型の経済活動の場として公民館を利用できたらいいなという考えがある。

【B班・発表概要】

- ・西予市の高校の存続、もしくは高校生の生活の充実、西予市の学校へ行きたいという子どもたちを育てたい、市内の魅力づくりをしたい。
- ・防災については単独で位置づけをしたい。
- ・センターを運営するにあたっての運営委員会が必要なのではないかな。
- ・人材については、任用職員を確保するのは難しいかもしれない。
- ・みなさんが笑顔で、満足した生活、充実した生活、楽しく生きるセンターができれば良い。

【C班・発表概要】

- ・センター長の役割と権限について、給与はどうかを検討していかなければならない。
- ・地域によっては自治会活動のなかの区長と地域づくり組織の長とは違うケースがあるので、どちらがイニシアティブをとり、自治センターの長になるかなど、いろんな方面からセンター長のありかたを考えなければいけない。
- ・任用職員については地域全体が分かっている人、地域の人との人と人との人間関係ができる人がなければ、機能していかないのでは。
- ・人材発掘は、放課後子ども塾や児童と地域の交流があるが、放課後・土曜日に行く活動や児童クラブ、子ども教室でもなかなか人材が確保できないなかで、センターでその機能まで果たしていく人材が地域の中にあるのかどうか。難しいところである。合わせて、人材発掘の中で一番大きな課題は、地域の中心になっている人材の高齢化。若い人にタッチする持続可能な人材への移行が自治センター化の取組を入れれば、スムーズな移行ができるのではないか。
- ・城川地区における公民館制度そのままだでも十分機能するのではという話があるが、公民館運営審議委員会が自治センター化になっても機能しているかどうかのチェックする機能を持たすことが必要。
- ・最後に、人が変わっても組織が維持できるような、持続可能なセンター組織になるべきで、その中での世代交代の大切さ、自治センターの人材発掘に活かせるか

【D班・発表概要】

財源確保は大丈夫なのか。コロナで政府がたくさんお金を使うなかで、財源が下りてくるのか。組織活動ができる財源確保ができるのだろうかという心配がある。

- ・それに合わせて、財源は年度で降りてくるが、年度単位なら不自由なことがある。予算が余ったら別会計作らないといけないため、消耗品を買って使い切るとか、足りないときは次の事業ができないという運用面で柔軟に使用できる予算が必要。
- ・年度をまたいでも繰越金で使える財源の在り方。
- ・資料31の中で、大変必要なことが抜けている。資料30は前回のグループ討議をした意見をまとめたものだが、この中にも出てきた、資料の設置要綱(資料14)のなかに、「住民の主体性を活かした小規模多機能自治活動による自主・自立の地域社会づくりを図る」とあり、自主・自立という言葉があるとよい。思い出して討議していかない自主・自立はできない。
- ・指定管理の話と、生産・雇用の場合も必要。道の駅のように個人が経営したり、自治体が経営したりしているが、地場産業を活用していくための場が必要。
- ・伝統・文化の場合は、三瓶の分館がなくなって、集会所でお祭りの準備が間に合わない。野村の乙亥大相撲のように全国的に有名なものやかつぱ祭りやどろんこ祭りといった大事な文化を保存、継承していく場が必要。
- ・出会いの場も必要。観光、移住、結婚相談、地域ビジネスとか場が必要になるのではないか。
- ・「自慢のできる場」、「安心・安全の場(防災を含めた)」といった地域づくりも大事では。
- ・「懸案事項」として、一つ目が「人員配置」。活動センターによっては規模が違うので、同じ人員配置ではどうか。支所の4割職員を削減ということなら、合併前の三瓶町が160人いた職員が半分本庁に上がって80人。そのあと4割削減なら48人で、支所の補完ができるようなものは必要なのでは。地域の職員を増やす、職員を張り付けること、職員と連携して取り組める場が必要。
- ・どこまで自治会に入り込めるか。「地域づくり組織」の横に「自治会」があるのはおかしい。自治会があってこそ地域づくりができるわけで、小規模多機能のセンター長が様々なことをするにも、地域の協力なくしてはできない。地域組織との関わり合い、組織の中に取り組むような方向で動くべきでは。
- ・地域の特性とお祭り・イベントを含めて特性を生かした場ではどうか。

【E班・発表概要】

- ・資料30、31をもとに討議し、最初に資料に示されている枠組みでいいかを話した。資料からより細分化した方がいいのか、このままでいいかを話した。もう少し細かくするか細かすぎると縛りが多くなるので、大きな枠組みだけ作り、細かいことは地域の状況に応じて臨機応変に対応していく方が大事なのではないか。
- ・資料に沿って話し合い、まず「支え合いの場」。これを「支え合い・つなぎの場」としてはどうか。住民の困りごとにどう対応するか。自治センターとしては全部受け入れ、センターで対応できることはセンターで対応し、できないことはICTを活用して、行政等につなぐことができるのではないか。
- ・センターは用がなくても気軽に集まれる場であってほしい。
- ・防災・福祉についても含めてはどうか。
- ・人づくり・学びの場については、全部「公助」になっているが、「自助・共助」の部分もあるのではという意見も。
- ・行政窓口の場は必要なものである。
- ・地域づくりの場は、営利活動が含まれているが、内容によっては今後の課題として出てくるのでは。
- ・今後の課題として、市職員と地域任用職員と地域住民との関りが難しい面がある。個人情報の漏洩等は十分話し合わなければいけない。

これまで頂いたご意見から、センターに備わる機能について4つの機能を柱として考えました。

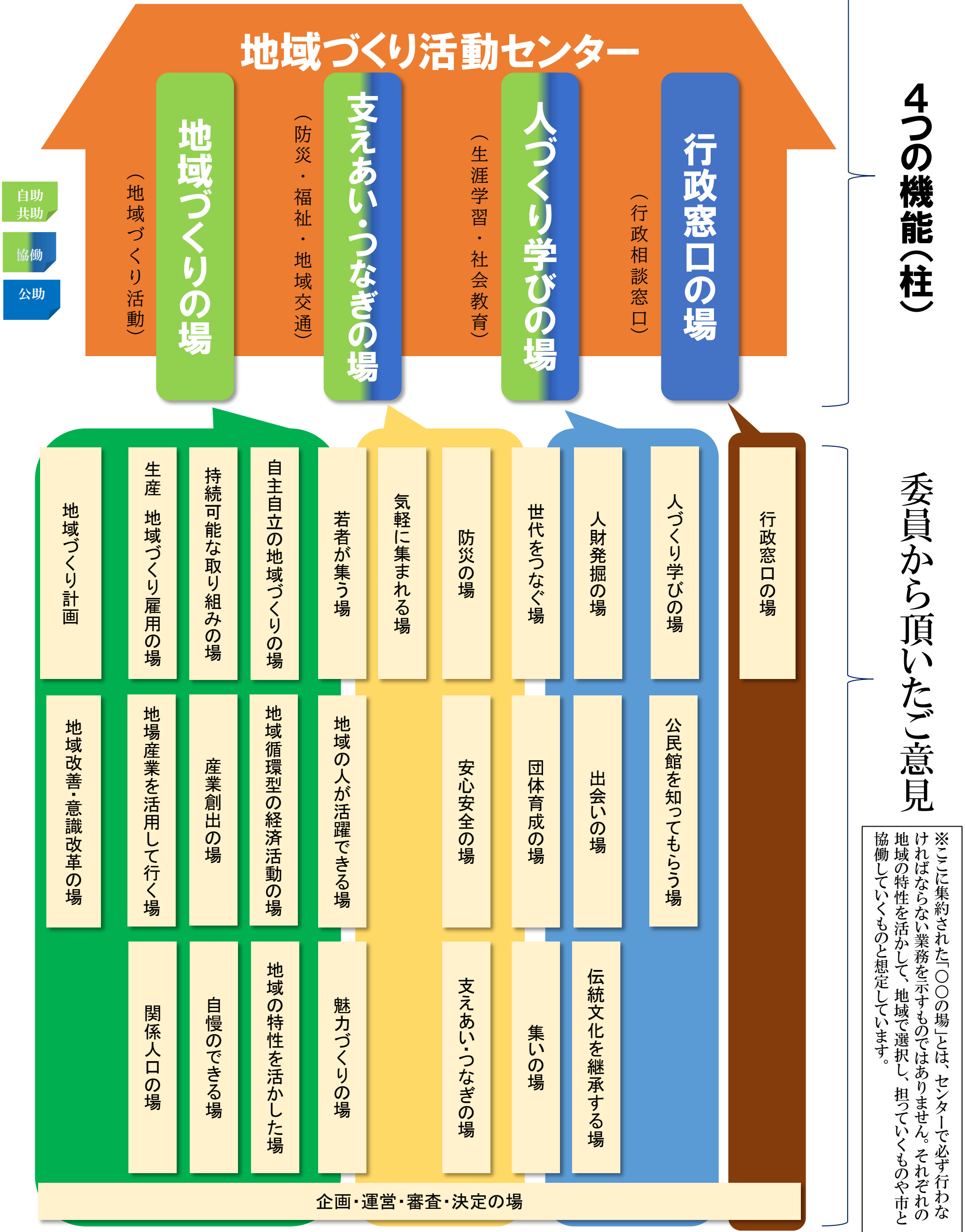
他に頂いた「〇〇の場」については、4つの機能に含まれるものと考え図に示しました。

資料33－1、33－2

資料32からの機能のイメージ図

資料33-1

委員の皆様から頂いた機能についてのご意見を集約した結果、センターには4つの機能の柱が必要ではないかと考えました。また、他に多くの「〇〇の場」として頂いたご意見は、下図のとおりそれぞれの機能に属するものであると考えます。



前ページに掲載した「〇〇の場」について、グループ分けを行い、各グループに見出しを付けました。

